

海陽町立海部小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善と楽しくよく分かる授業実践
○デジタルポートフォリオの活用による学びの蓄積を行い、個別最適化された学びを実現する。
○教育DXとして①遠隔学習の可能性の探究②創造的なプログラミング教育の追求③生成 AI の活用を3つの柱にし、新しい時代の新しい学びのあり方を模索する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長：岩浅英夫 教頭：石橋邦人 指導教諭・研修主任：溝内正剛 教務主任：池内奈津子
三浦 早羅	特別支援教育コーディネーター：尾崎亜紀

校長
岩浅 英夫

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、
学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な漢字や計算の力や家庭学習の習慣が身に付いている児童が多い。 ●必要な情報を取り出して、文を読み取ったり理由や根拠を明確にして書いたりすることが苦手な児童がいる。	・習得した知識・技能を他の場面や生活で関連付け、活用することができる。 ・目的に応じて必要な情報を集め、理由や根拠が明確になるように、自分の考えをまとめることができる。	・海部っ子の学び方や海部小授業スタンダードを継続し、定期的に学力向上を検証する。 ・自分の考えをまとめたり、AIドリルによる個人に合った学習を進めたりする等、GIGA 端末を学校や家庭で積極的に活用し、学びの個別最適化をはかる。	・進んで発表したり、話を聞いて行動したりすることが苦手な児童が多く、基本的な学習習慣の定着をしていく学級づくりが必要である。 ・AIドリルは学級によって取り組み方の差があり、情報交換が必要である。	・週目標に設定したり、手引きとなるヘルプカードを使ったりすることで、前向きに発表できる児童が増えてきた。 ・AIドリルはどの学級も授業の適用題として行ったり、宿題で取り入れたりと活用することができた。	・基本的な学習習慣を定着させ、文章で必要な部分に線を引くなどをして、正確に読み取り発表することに繋げていきたい。 ・個人に合った学習方法をさらに進めていきたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表できる児童や学習マナーを守れる児童の割合は多い。 ●相手の話を聞いて理由や根拠を明確にし、はっきりと話すことや新しい課題を見付けることが苦手な児童がいる。	・相手の意見をよく聞かし、理由や根拠を明確にして、自分の意見を書いたり話したりして表現することができる。 ・学びの共有を行い、協働的に学びながら物事を順序立てて考えることができる。	・相手の意見をよく聞くために、効果的に ICT を活用する。 ・意図的・計画的に自分の考えを文章に書いたり発表したりする場を設ける。 ・ICT 機器を活用した協働学習により、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。	・理由や根拠を明確にして話したり書いたりできる児童の割合が少なかった。授業だけでなく、日常生活の中でもさらに意識して指導する必要がある。	・日記や学級会など多くの機会で理由や根拠を明確にすることが増えたため、自分の考えを表現することができる児童が多くなった。 ・教育 DX 等の研修を深めたことにより、ICT 機器を活用した学習指導に取り組めた教員の割合が向上した。	・継続して理由や根拠を表現できる機会を増やしていきたい。 ・さらに教育 DX 等の研修を進め、ICT 機器を活用し、学びを深めることができるようにしていきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真面目に取り組める児童が多い。自分が好きなことを活かして学習する児童が多い。 ●自分とは関わりが少ないことや解決したいことに粘り強く取り組んだり、新たな課題を見付けたりできる児童は少ない。	・最後まであきらめずに粘り強く課題に取り組んだり、めあてや学びの成果を意識して主体的に学習に取り組んだりすることができる。	・GIGA 端末等を活用した家庭学習の工夫を工夫し、個に応じた学習が進められるようにする。 ・学習のめあてをはっきりと示し、振り返りの時間をしっかりと位置づけ、個々の学びを共有することにより、次の学習への意欲を高める。	・自主学習の工夫を積極的に指導し、個に応じた学習が進めることができるようにする。 ・学級によって振り返りの時間や頻度が異なるため、共通理解を図りたい。	・各学級で自主学習の紹介や学習の工夫を指導することはできたが、学校全体で情報交換を行う機会をあまり持つことができなかった。 ・ICT 機器を利用した振り返りの効率的な実施などにより、振り返りの時間を日常的に確保できるようになってきた。	・全校で自主学習の工夫を学ぶことができるように、自主学習週間を設けるなど進めていきたい。 ・児童の振り返りを生かして、次の授業を組み立てていく学習サイクルを作っていきたい。

